

厚生労働省により  
ワクチンの積極的  
勧奨は再開されて  
います。  
小学6年～高校1年  
相当の女子と  
1997年4月2日～  
2008年4月1日生  
まれの女性は公費  
で接種ができます。

厚生労働  
省ホーム  
ページ  
ヒトパピ  
ローマウ  
イルス感  
染症

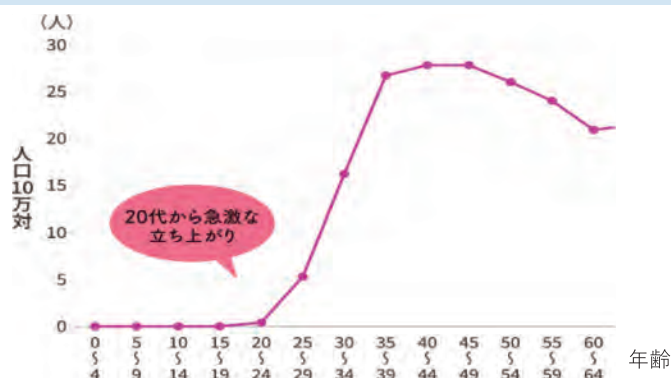


堺市ホーム  
ページ  
子宮頸がん  
予防ワクチ  
ン接種につ  
いて

# ストップ 子宮頸がん！

子宮頸がんはワクチンで予防できます

子宮頸がんは、  
20～30歳代の若い女性に増えています



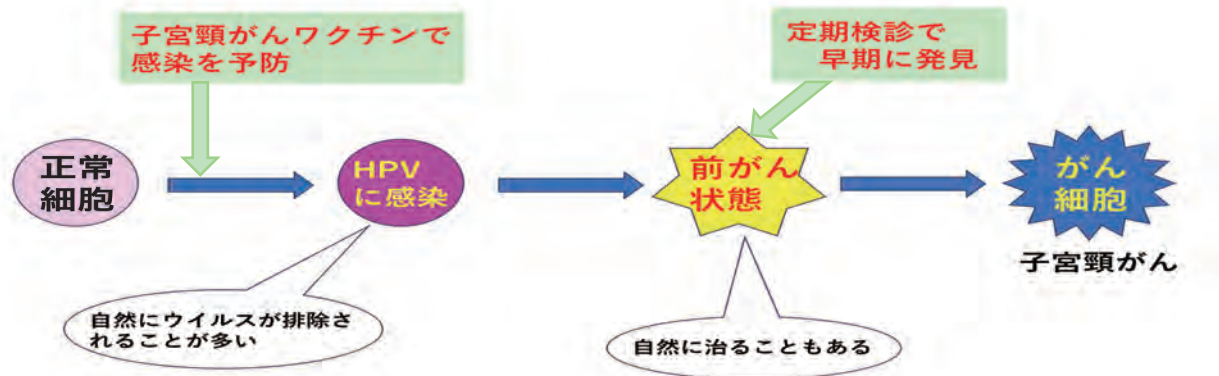
日本では、毎年約11000人もの女性が子宮頸がんと診断され、約2900人が子宮頸がんで亡くなっています。また20歳代後半から30歳代という子宮頸がんの発症年齢と出産年齢のピークが重なります。

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」

堺市医師会  
HPVワクチン接種率向上のための委員会

内科医会 女医会 産婦人科医会 小児科医会 学校医会 皮膚科医会 整形外科医会 泌尿器科医会 耳鼻咽喉科医会 眼科医会 外科医会

# 子宮頸がんの原因のほとんどがヒトパピローマウイルス (HPV) です。



HPVはありふれたウイルスで80%以上の女性が生涯で普通に感染するといわれています。感染の機会のほとんどは性交渉によります。感染しても多くの場合は自然に排除され問題にならないのですが、中には感染が持続することがあります。感染が持続した場合、少しずつ細胞が変化していき、やがて子宮頸がんとなるものがでてきます。9価ワクチンでは原因となるHPVの80～90%を防ぐことができます。さらに子宮頸がんワクチンでは防ぎきれない型のHPVがあることやHPV感染以外の原因によるものも少数ながらあるので、**20歳以降の2年に1回の定期検診も欠かせません。**

## 子宮頸がんの予防にはワクチンと検診の両方が重要です！

### HPVワクチンの安全性は確認されています

HPVワクチンは、他のワクチンと比べて特別に重い副反応を起こしやすいわけではなく、厚生労働省もWHOもHPVワクチンの安全性を担保しています。

### ワクチン接種後に起こりうる症状

#### ○はれ、痛み（局所反応）

ワクチン接種に伴い、接種した場所に起こる炎症。多くは数日以内に改善します。

#### ○アナフィラキシー

接種後にじんましんや咳などのアナフィラキシー症状が起こるのは約96万回に1回。接種後30分は病院で安静に。

#### ○しびれ・不動・失神・不随意運動などの「多様な症状」

このような症状は「機能性身体症状」と呼ばれます。ワクチン接種の痛みや不安がきっかけで起こる可能性もありますが、他の予防接種でも起こる反応で、思春期に起こりやすいという特徴があります。保護者や本人が事前にしっかりと説明を受け、納得してから接種することもこうした症状の予防につながるということが分かっています。

厚生労働省ホームページ  
HPVワクチンのリスク  
(安全性)



## 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を行った医療機関の医師に相談してください。

ワクチンに関する不安や疑問、  
接種についてはかかりつけ医に  
相談してください。

被接種者が接種後に生じた  
症状で困ったときの相談  
窓口(都道府県ごとに設置)



堺市子宮頸がんの定期  
予防接種にかかる市内  
予防接種実施医療機関

